

南山大学人類学博物館

年 報

2013 年度

南山大学人類学博物館

巻頭言

2013年10月、人類学博物館はリニューアルを果たした。人類学博物館3.0の時代が始まったのである。リニューアル以降を3.0とするならば、1.0、2.0とはどんなものだったのか、と思われるだろう。そこで、1.0、2.0の活動を定義するならば、1.0は資料収集、2.0は普及活動といえることができるだろう。それでは3.0では何を求めようというのか。

人類学博物館は、すでに「ユニバーサル・ミュージアム」を目指すという新たな博物館作りに着手し、幸いにも一定の評価をいただいております、それをもって3.0と言えるかもしれない。しかし、開館して1年も経てばそのようなバリューは失われていくことは明らかであろう。われわれは評価に甘んじることなく、次のステップを模索しなければならないのである。

3.0をどのようにするかについては、様々な意見があるかもしれない。人によっては学習プログラムの充実を図ることと考えるだろう。また、別な人は大学としての研究機能の拡充を考えるかもしれない。しかしここでは、そうしたことを全て包括しながら、博物館を特別な経験を得られる場として構築していくことと捉えようと思う。

ここでいう「特別な経験」という言葉は、アメリカの博物館学者であるG.ハイン氏による「構成主義に基づく博物館」という考え方と同義だと言って良い。日本においては多くの博物館（特に歴史系博物館）で、未だに解説的な手法がとられ、博物館は正しい知識を与える場であるという考え方が取られているのではないかと思う。もちろん、そうした方法が、ある場合においては必要であることは否定しないが、そればかりでは博物館は学校の延長でしかなくなってしまふ。

博物館が博物館であるためには、来館者/見学者/学習者が、それぞれの経験（この経験は個人の中にある）の中から知識を構成するという考え方が極めて重要であると考えます。そして、そうした博物館ならではの学習経験（この経験は博物館が提供する）を得られる仕掛けをわれわれは構築していかなければならない。

そのためには、学習プログラムを策定することも必要であろう。そうしたプログラムの前提となる研究も必要であろう。しかし、人類学博物館3.0を定義するとき、それ以上に重要なことは、「特別な経験を得られる場の構築」という目標に向かって、様々なアイデアを生み出し、それを実行し、実現していくことである。そして、これには楽しさと同時に、苦しみもつきまとう。それに耐えられるかどうか、今後の人類学博物館の行方についての試金石となる。

2014年6月
南山大学人類学博物館

目次

1. 2013年度の人類学博物館の活動	1
(1) 教育普及活動	1
① 展示	1
② シンポジウム	1
③ 講座	2
④ 連携授業	2
(2) 調査・研究活動	3
① 調査出張	3
② 研究活動	3
(3) 資料の収集・整備と利用	4
① 受贈資料	4
② 燻蒸の実施	4
③ 購入図書	4
④ 受贈図書数	4
⑤ 資料貸出	4
⑥ 取材・調査のための来館者一覧	5
⑦ 撮影・他機関刊行物等への掲載	5
⑧ 当館紹介刊行物一覧	6
(4) 出版活動	6
2. 組織と運営	7
(1) 組織	7
(2) 開館・入館者実績	7
① 開館日数・入館者数	7
② 入館団体内訳	7
3. 規程	9
(1) 南山大学人類学博物館規程	9
(2) 南山大学人類学博物館運営委員会規程	10
(3) 南山大学人類学博物館資料評価委員会規程	11

1. 2013 年度の人類学博物館の活動

(1) 教育普及活動

① 展示

南山大学人類学博物館・明治大学博物館連携事業

南山大学人類学博物館・明治大学博物館交換企画展

南山大学博物館会場：「江戸捕物帖の世界」

明治大学博物館会場：「パプアニューギニアの物資文化～南山大学とアウフェンアンガー神父収集コレクション～」

会期：2013年11月9日（土）～12月14日（土）

会場：南山大学人類学博物館・明治大学博物館

総来場者数：5,743名

公開講演会：①南山大学人類学博物館会場…12月7日（土）14：00～15：30、人類学博物館実習室

担当：外山徹（明治大学博物館学芸員）

「江戸時代の警察制度治安取締」

聴講者：14名

②明治大学博物館会場：12月14日（土）、14：00～15：30、明治大学博物館内

担当：竹尾美里（南山大学人類学博物館学芸員）

「人類学博物館のパプアニューギニアコレクションについて」

聴講者：15名

② シンポジウム

第3回三大学シンポジウム「オセアニアの物質文化・民族造形—通称今泉コレクションを中心に」

主催：南山大学人類学博物館／共催：南山大学人類学研究所

会期：2014年3月15日（土）

会場：南山大学名古屋キャンパス R 棟 R31 教室

入場無料、申込不要

スケジュール

10：00 開会

趣旨説明 黒沢浩（南山大学）

10：05 基調講演 オセアニアの物質文化—南山大学博物館と沖縄海洋文化館のカヌー資料を中心に— 後藤明（南山大学）

11：00 休憩

11：10 報告1 パラオ共和国の伝統的カヌーを追う—沖縄海洋博公園海洋文化館所蔵資料・コトラオルを事例に— 如法寺慶大（南山大学）

11：40 報告2 フィジーの棍棒について—竹尾美里（中京大学）

12：10 昼休み

13：00 報告3 イアツムル族の移動戦略と社会—高橋龍三郎（早稲田大学）

- 13:30 報告4 実用品ではない財貨としての石斧—吉田祐彦（天理参考館）
 14:00 報告5 民族誌・民族資料から見た土器の用途・分布論—中門亮太（早稲田大学）
 14:30 報告6 板根を利用した民族造形—早坂文吉（天理参考館）
 15:00 休憩／博物館見学
 15:30 質疑応答 進行：黒沢浩
 15:45 討議 進行：黒沢浩
 17:00 終了

③ 講座

博物館の本来の機能である普及事業の一環として、南山大学学生を含めた一般の方々を対象として、フィールドワークを開催した。

フィールドワークは東海地方の考古学的な遺跡を、現地まで訪ねて観察し、そこから人々の営みについて様々なことを引出すための技術や知識の習得を目的とする。具体的には、25,000分の1の地形図を見ながら、遺跡を探し出す技術や残された遺構から遺跡を復元的に考える方法を学ぶ。本年度の参加者は19名であった。

2013年度フィールドワーク「東海の考古遺跡を歩く 2013」

- 第1回 10月19日（土） 事前指導 講師：黒沢浩（南山大学教授）
 第2回 10月27日（日） 岐阜県立博物館「弥生大集落」開催
 塚原遺跡公園（弥勒寺・池尻大塚古墳）
 現地講師：森島一貴氏
 第3回 11月10日（日） 雨のため延期
 12月8日（日） 徒歩にて、高塚古墳、村前遺跡、五条川の大回り等。
 東出古墳、北名古屋歴史民俗資料館見学
 現地講師：伊藤昭良氏（北名古屋歴史民俗資料館）
 第4回 11月24日（日） 昼飯大塚古墳・船来山古墳群見学
 現地講師：中井正幸氏（大垣市教育委員会）
 恩田知美氏（本巣市教育委員会）
 第5回 11月30日（土） 事後指導 講師：黒沢浩（南山大学教授）
 申込者数：19名

④ 連携授業

今年度の授業では、博物館に展示されている様々な器物から何らかの有意義な情報を引き出すトレーニングとして、資料の観察とスケッチ、意見交換によって得られた情報に基づいて、対象となる器物にまつわる物語を自ら想像し、創造していくように指導を行った。

この授業では、博物館資料の観察を通して、器物に残されたかすかな痕跡を見出し、それによってその器物にまつわる物語を想像／創造することによって、モノと人間をつなぐ思考の仕方を修得することを目的とする。

この方法は、近年、特に美術館における美術教育で注目されている Visual Thinking Strategy (VTS) と呼ばれる方法に近いものになる。本授業ではこうした方法を応用しながら、生徒たちがモノの観察と他の人たち（生徒同士、先生 etc）との対話を通じて、物質資料を人間との

かわりにおいて理解する方法を身につけてもらうことを目標とした。

さらに、今回の授業の総括として各自が想像／創造した物語に関する発表を行わせ、プレゼンテーションの難しさや楽しさを学ぶ機会を提供した。

連携授業は以下の日程で行った。

- 10月7日（月）：趣旨説明：テーマ＝モノから見る「文化」の理解
課題提供：モノから物語を想像／創造する
- 10月17日（木）：授業
縄文土器・弥生土器の観察、土器作りを学ぶ
- 10月21日（月）：授業
・グループごとにあらすじの紹介
・講義—土器概説
- 11月11日（月）：授業
・昭和の一品／逸品・・・それにまつわる家族の物語
- 11月18日（月）：研究室訪問
・扱う資料に関して再調査
- 11月25日（月）：物語発表準備
- 12月9日（月）：物語の発表

（2）調査・研究活動

① 調査出張

- 1) 平成 25 年度 愛知県博物館協会総会
日時：平成 25 年 6 月 25 日（火）
内容：愛知県博物館協会主催「平成 25 年度愛知県博物館協会総会」への参加
出張者：竹尾美里
- 2) 第 13 回 学芸員照明研究会
日時：平成 25 年 11 月 27 日
内容：パナソニック汐留ミュージアム主催「第 13 回学芸員照明研究会」への参加。
出張者：西川由佳里
- 3) 平成 25 年度 愛知県博物館協会 調査・研究部門研修会
日時：平成 26 年 2 月 25 日（火）
内容：愛知県博物館協会主催「調査・研究部門研修会」
「寄託・寄贈品の受入について」への参加
出張者：西川由佳里

② 研究活動

- ・施設視察

北名古屋市歴史民俗資料館を視察し、今後の博物館運営に活かせる諸情報を得た。

日時：2013年5月30日（木）実施
 解説：伊藤昭良氏（北名古屋市歴史民俗資料館学芸員）
 場所：北名古屋市歴史民俗資料館
 視察参加者：竹尾美里・西川由佳里

（3）資料の収集・整備と利用

① 受贈資料

1. 田ノ井久子氏より、考古学関連書籍一式
2. 黒川眞澄氏より、キャビン工業製スライドプロジェクター一式
 ビクター製ポータブルプレーヤー一式
 ナショナル製ポータブルプレーヤー一式
3. 溝田佳広氏より、日立製作所製電話機1点

② 燻蒸の実施

- 6月6日（木）：昆虫モニタリングトラップ館内配置
 6月17日（月）：モニタリングトラップ回収
 6月29日（土）：館内全域燻蒸
 7月1日（月）：館内安全濃度確認・撤去
 施工後の昆虫モニタリングトラップ配置
 7月12日（金）：施工後の昆虫調査トラップ回収

③ 購入図書

92冊

④ 受贈図書数

発掘調査報告書	一般図書・紀要・年報・図録・研究報告等	たより類
683	373	287

⑤ 資料貸出

貸出先	資料名・点数	貸出期間	目的
知多市民俗博物館	入海貝塚出土遺物 16点 東畑貝塚出土遺物 5点	2013年6月下旬～ 9月中旬（展示期間7 月20日～9月1日）	「知多×縄文～見て触れて 体験する 縄文の暮らし～」 に出展するため。
松戸市立博物館	松戸市二ツ木遺跡出 土遺物25点	2013年9月19日～ 12月13日	平成25年度特別展「松戸の 発掘60年史」の出展のため
豊田市郷土資料館	パプアニューギニア 投槍器2点	2014年1月25日～ 3月9日	豊田市郷土資料館特別展「一 弓入魂 ～とよたの弓文化 をさぐる～」への出展のため

			め。
北名古屋市歴史民俗資料館	電動テープカッター (重松家資料)	2014年1月下旬～6月上旬	平成26年度企画展「昭和文具・ラボ」で出展のため。
名古屋大学博物館	マリンガーコレクション・民族誌資料コレクション・古人類の復元胸像・人類化石レプリカ	2014年2月21日～5月12日 2014年5月12日～7月14日	名古屋大学・南山大学人類学博物館共催特別展「人類史上画期的な石器—明大のアフリカ考古学と南山大学の旧石器コレクション」に出展のため。

⑥ 取材・調査のための来館者一覧

来館者名	資料名・点数	実施日
松戸市立博物館	二ツ木向台出土土器 38点・石器 11点・骨角器 16点・貝輪 2点	2013年5月7日
奈良大学 小坂時子氏	花輪台貝塚・入海貝塚出土の土偶	2013年5月10日
知多市歴史民俗博物館	入海貝塚出土遺物 14点・東畑貝塚出土遺物 7点	2013年5月13日
江戸東京たてもの園	G・グロート（日本考古学研究所）調査・出土資料	2013年6月17日
竹尾美里	ニューギニア資料（展示室・収蔵庫）	2014年2月5、6、8、14日

⑦ 撮影・他機関刊行物等への掲載

機関名	資料名	刊行物名等	刊行予定
豊田市教育委員会	前畑遺跡出土土器 51点	『新修豊田市史』	2013年3月
奈良大学 小坂時子氏	花輪台貝塚縄文早期土偶 1点・入海貝塚出土縄文早期土偶 1点	卒業論文	2014年1月14日
神奈川大学プロジェクトヤオ族文化研究所	上智大学西北タイ歴史文化調査団文献資料見開き 1ページ	『神奈川大学歴史民族調査報告』	2014年3月末
NHKエデュケーションal教育部	千葉県二ツ木貝塚出土深鉢	放送大学講義番組「『日本美術史』第1回 形の生命—縄	2014年4月1日から6年間放送予定

		文時代・弥生時代」	
株式会社 平凡社	花輪台貝塚土偶	『別冊太陽「縄文の時代」』	2013年9月25日
文英堂	大須二子山古墳出土 副葬品1点	『理解しやすい日本史B』	2014年3月末
学研教育出版	縄文式深鉢形土器 (関山式)・二ツ木 貝塚出土	『学研のまるごとシリーズ まんが日本の歴史 2000年増 補改訂版』	2013年9月24日
松戸市立博物館	二ツ木向台遺跡出土 遺物展示風景写真1 点、人類学博物館外 観1点、土器8点、 石器1点、骨角器1 点、	平成25年度特別展『松戸の発 掘60年史』	2013年10月5日
中部日本放送株式会 社	「三保松原図」掛け 鏡(写真)	中部日本放送情報番組「ゴゴ スマ」内「いま知りたいニュ ース」コーナー	放送予定日2014年 1月31日
山川出版	二ツ木貝塚出土深鉢	『文部科学省検定済教科書 (高等学校日本史)』(資料 写真転載)	2014年4月
竹尾美里	ニューギニア資料 (11-65、11-66、 11-98、11-108、 11-423)	『南山大学人類学博物館紀要 32号』	2014年3月末
丹青社	南山大学人類学博物 館写真1枚	『株式会社丹青社 第56期 株主通信』	2014年4月25日

⑧ 当館紹介刊行物一覧

機関名	内容	刊行物名
ad-kid	紹介文・写真	千種版咲楽 11月号
中日新聞	紹介文・写真	『中日新聞』2014年2月25日刊行
日経新聞社	紹介文・写真	『日経新聞』2014年3月17日刊行

(4) 出版活動

1. 『南山大学人類学博物館紀要』第32号
2. 『南山大学人類学博物館年報 2012年度』

2. 組織と運営

(1) 組織

1) 職員

館長	青木 清 (副学長 (教学担当/法学部教授))
担当教員	黒沢 浩 (人文学部人類文化学科教授)
学芸員	西川 由佳里 (特別嘱託職員) 竹尾美里 (特別嘱託職員) (2013年12月31日) 池田縁 (派遣職員) (2014年1月1日~3月31日)
事務員	室田美香 (専任嘱託職員) 沖田朋絵 (臨時職員)

2) 博物館運営委員会

委員長	黒沢 浩 (人文学部教授)
委員	吉田竹也 (博物館学芸員養成課程委員会委員長) 加藤 隆浩 (外国語学部教授) 大塚 達朗 (人文学部教授) 濱田 琢司 (人文学部日本文化学科准教授) 大川 隆 (教育・研究支援事務室長) (2013年)

3) 資料評価委員会

委員長	大塚 達朗 (人文学部教授)
委員	加藤 隆浩 (外国語学部教授)
委員	後藤 明 (人文学部教授)

(2) 開館・入館者実績

①開館日数・入館者数

開館日数	入館者数 (授業以外)	団体数	団体人数
132	4052	43	1440

②入館団体内訳

・大学見学

日付	団体名	人数	担当課室
10月7日	名城高校	30	入試課
10月10日	静岡東高校	90	入試課
10月10日	静岡東高校	90	入試課
10月17日	名城高校	30	入試課
10月24日	高蔵寺高校	42	入試課
11月1日	愛知産業大学付属三河高校	67	入試課
11月7日	各務原高校	122	入試課
11月12日	宇治山田高校保護者	32	入試課

11月13日	名城高校	30	入試課
11月13日	南山高等学校男子部保護者	65	入試課
11月19日	東浦高校	24	入試課
11月26日	熱田高校保護者	10	入試課
12月5日	岡谷南高等学校	40	入試課
12月6日	飛騨高山高等学校	30	入試課
12月9日	岐阜商業高校	41	入試課
12月11日	東邦高校	35	入試課
3月18日	惟信高等学校	53	入試課
3月26日	小松市立高等学校	40	入試課

・大学見学以外の団体

日付	団体名	人数
10月9日	南山高等学校女子部	64
10月11日	西三河高校社会科研究会	35
10月30日	カトリック東山教会女性部	26
11月5日	一宮博物館	7
11月9日	南山高等学校女子部（模擬授業）	25
11月11日	日永子ども人権文化育成協議会	19
11月21日	名古屋大学博物館	10
11月21日	アート名美	5
11月23日	美濃加茂市民ミュージアム ユニバーサルミュージアム研究会東海	10
12月7日	中京大学現代社会学部	15
12月7日	一宮友歩会	50
12月11日	星槎国際高等学校・名古屋キャンパス	24
12月16日	中部研究支援実務者連絡会	40
1月9日	春日井ボランティアグループ「アイ・愛」	10
1月15日	名古屋市立有松中等学校	28
1月22日	守山市立埋蔵文化財センター友の会	42
1月28日	名古屋市立荻山中学校	16
1月30日	アート名美	23
1月30日	南山中学校男子部	19
2月4日	名古屋市立東港中学校	10
2月6日	全日本年金者組合瑞穂支部	15
2月17日	ホームセンター・サニーズ	8
2月22日	愛知盲ろう者友の会	28
3月13日	春日井市ボランティア「アイ・愛」	20

3月20日

聴覚障害者支援事業所「ほっとくる」

20

3. 規程

(1) 南山大学人類学博物館規程

(目的)

第1条 南山大学学則第44条の2にもとづき、南山大学に南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）を置く。

② 博物館は、「人類学（文化資源学、考古学、民俗学および民族学を含む。）」（以下「人類学」という。）に関する資料の収集、調査、解析、収蔵、管理、保存、展示、公開などを行ない、南山大学の学生、職員および社会の利用に供し、教育・研究に資することを目的とする。

③ 博物館の組織および運営については、この規程の定めるところによる。

(事業)

第2条 前条第2項の目的を達成するため、博物館は、次の各号に掲げる事業を行う。

- 1 人類学に係る調査、収集、保存、管理および解析
- 2 人類学の展示および公開
- 3 人類学に関する情報提供
- 4 人類学に関する教育研究の支援
- 5 博物館所蔵資料を利用した生涯学習の企画および運営
- 6 博物館および博物館に従事する職員の資質向上に寄与する学芸員の養成

(館長)

第3条 博物館に館長を置く。館長は副学長（教学担当）とする。

② 館長は、博物館の事業を統轄し、博物館を代表する。

(担当教員)

第4条 博物館に博物館担当教育職員（以下「担当教員」という。）を置く。

② 担当教員は、博物館活動の企画・運営に従事する。

③ 担当教員は、学長が指名する候補者について、大学評議会の承認を得て委嘱する。

(運営委員会)

第5条 博物館の運営に関する重要事項を協議し、諸事全般を決定する機関として南山大学人類学博物館運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

② 運営委員会に関する規程は、別に定める。

(資料評価委員会)

第5条の2 第2条第1項第1号に定める収集事業を適正に遂行するために、南山大学人類学博物館資料評価委員会（以下「資料評価委員会」という。）を置く。

② 資料評価委員会に関する規程は、別に定める。

(規程の改正)

第6条 この規程の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、博物館の運営について必要な事項は、運営委員会の議を経て、館長が別に定める。

附則

この規程は、2005年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2006年7月1日から施行する。

(2) 南山大学人類学博物館運営委員会規程

(目 的)

第1条 南山大学人類学博物館運営委員会（以下「委員会」という。）は、南山大学人類学博物館規程第5条にもとづき、南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）の運営に関する重要事項を協議し、諸事全般を決定することを目的とする。

(組 織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 1 博物館担当教育職員（以下「担当教員」という。）
- 2 博物館学芸員養成課程委員会委員長
- 3 学長より指名された者若干名

② 委員は、大学評議会の承認を経て、学長が委嘱する。

③ 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(所掌事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- 1 博物館の予算（案）および決算（案）に関する事項
- 2 博物館資料の収集選択に関する事項
- 3 博物館関係規程の制定または改廃に関する事項
- 4 博物館の事業に関する事項
- 5 その他博物館の管理運営に関する重要事項

(議事運営)

第4条 委員会に委員長を置き、担当教員をもってあてる。

② 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

③ 委員長に支障のあるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

④ 委員会は、特に定めのある場合のほか、委員の過半数の出席をもって成立し、出席者の過半数をもって議決する。

⑤ 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(事 務)

第5条 委員会の事務は、教育・研究支援事務室が担当する。

(規定の改正)

第6条 この規定の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

(雑 則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、2005年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2006年7月1日から施行する。

(3) 南山大学人類学博物館資料評価委員会規程

(目 的)

第1条 南山大学人類学博物館資料評価委員会（以下「委員会」という。）は、南山大学人類学博物館規程第5条の2にもとづき、南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）において行なう博物館資料の収集に関する事項を協議し、決定することを目的とする。

(組 織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

1 南山大学人類学博物館運営委員会委員2名

2 博物館長より指名された者若干名

② 委員は、大学評議会の承認を得て、学長が委嘱する。

③ 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(所掌事項)

第3条 委員会は、博物館資料の寄贈の申入れについて、南山大学人類学博物館運営委員会の諮問に基づき、その可否を審議、決定する。

(議事運営)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

② 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

③ 委員長に支障のあるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

④ 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、出席者の過半数をもって議決する。

⑤ 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(事 務)

第5条 委員会の事務は、教育・研究支援事務室が担当する。

(規程の改正)

第6条 この規程の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

(雑 則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、2006年7月1日から施行する。

NANZAN UNIVERSITY

2014年 6月 12日 印刷

2014年 6月 12日 発行

南山大学人類学博物館年報 2013年度

編集・発行 南山大学人類学博物館

466-8673 名古屋市昭和区山里町18

phone 052 (832) 3147 内線 5223

印刷 株式会社ウエルオン

460-0007 名古屋市中区新栄 3-21-31

TEL 052 (732) 2227